CS643IJPJC-1

TOSHIBA

東芝ルームエアコン
据付説明書

冷媒 R32

日本国内専用品
Use only in Japan

U-Xシリーズ・U-Mシリーズ
（据付板　幅551㎜用）

フロンの見える化

家庭用エアコンには GWP（地球温暖化係数）が 675 のフロン類（R32）が封入されています。
地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等にあたってはフロン類の回収が必要です。

●据付工事完了後、「14. 試運転と点検」の確認を行い、本説明書をお客様にお渡しください。また、本説明書は取扱説明書とともにお客様で保管していただくように依頼してください。

安全上のご注意

●据付工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ据え付けてください。
●据付説明書の記載内容を守らないことによる生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。表示と意味はそのようになっています。

※1：軽傷には、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。
※2：物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害をさします。

⚠警告

「誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを」を示します。

⚠注意

「誤った取り扱いをすると人が軽傷（※1）を負う可能性、または物的損害（※2）が発生する可能性があることを」を示します。

⚠警告

●**据付は、お買い上げの販売店または据付専門業者に依頼する**
お客様ご自身で行うと、火災・破裂・感電・けが・水漏れの原因になります。
●**据付工事は、冷媒R32用もしくはR410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付説明書に従って確実に行う**
専用の配管部材を使用しなかったり、据付に不備があると、火災・破裂・感電・けが・水漏れの原因になります。
●**据付は、強度を確認し、重量に十分耐える場所に確実に行う**
耐重量不足や取付が不完全なときは、ユニットの落下により、けがの原因になります。
●**室外ユニットは、ベランダの手すりの近くに設置しない**
お子様が上に登り、手すりを乗り越え、落下事故につながります。
●**電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用すること。電圧は製品の定格電圧と合わせる**
電源回路容量不足や施工不備があると、火災・感電の原因になります。
●**室外ユニット間の配線は、途中接続やより線の使用はせず、所定のケーブルを使用して確実に接続する**
接続固定が不完全なときは、発熱・火災の原因になります。
●**室内外ユニット間の配線は、端子カバーを確実に取り付けて配線を固定し、端子接続部に外力が伝わらないようにする**
カバーの取付が不完全なときは、端子部の火災・発熱・感電の原因になります。
●**据付工事部品は、必ず付属部品または指定の部品を使用する**
使用しないと、ユニットの落下・水漏れ・火災・感電の原因になります。
●**エアコンの据付や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒（R32）以外の空気などを混入させない**
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂によりけがなどの原因になります。
●**設置工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する**
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●**作業中に冷媒ガスが漏れたときは換気する**
冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●**エアー工事を行う**
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全なときは、感電の原因になります。
●**可燃性ガスの漏れるおそれのある場所には設置しない**
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、火災の原因になります。
●**ふら場など、水がかかったり、湿気が多い場所には設置しない**
絶縁劣化により、火災・感電の原因になります。
●**据付工事は、この据付説明書に従って行う**
据付に不備があると、火災・破裂・感電・けが・水漏れの原因になります。
●**電源プラグを差し込むときは、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもホコリの付着・詰まり・がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む**
ホコリの付着・詰まり・がたつきがあると、火災・感電の原因になります。
コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
●**据付作業では運転する前に、次のことを確認する**
・配管接続は確実に取り付け、漏れがないこと
・サービスバルブの弁が開いていること
サービスバルブが閉まった状態で圧縮機を運転すると、異常高圧となり圧縮機などの部品の破損の原因になります。また接続部で漏れがあると空気を吸い込むなどで悪に異常高圧となり破裂・けがの原因になります。
●**ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う**
・冷凍サイクル内に空気を混入させない
・サービスバルブを2つとも閉ったあと、圧縮機を停止させ冷媒配管をはずす
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。
●**電源コードは、極端に折り曲げたり、束ねたりしない。また、加工・改造や接続・タコ足配線はしない**
接続不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災・感電の原因になります。
●**指定冷媒以外は使用（冷媒補充・入替え）しない**
指定冷媒以外を使用した場合、機器の故障や破裂・けがなどの原因になります。
●**室内ユニットを持つときは、前面パネルに手を掛けない**
作業中に前面パネルが開き、ユニットの落下によりけがの原因になります。

⚠注意

●**設置場所によっては漏電ブレーカーの取付が必要**
漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電の原因になることがあります。
●**ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管する**
不適実なときは室内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
●**フレアナットはトルクレンチを使用し指定の方法で締め付ける**
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因になることがあります。
●**据付作業では手袋（※）を着用する**
着用しないと部品などにより、けがの原因になることがあります。
（※軍手などの厚手の手袋）
●**室外ユニットの吸込口やアルミフィンに触らない**
けがの原因になることがあります。
●**新築物件・リフォームなどの内装工事や床面のワックスが付いたままエアコンを運転しない**
ワックス等の揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや水飛びの原因になります。作業終了後は、エアコンを運転する前に十分に換気をしてください。
●**室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には設置しない**
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、火災・故障の原因になることがあります。お客様に周辺きれいに保つことを依頼してください。

冷媒配管について

1. 配管キットを使用するとき
●必ず、配管肉厚が0.8mmのものを使用してください。
2. 一般の銅管を使用するとき
●銅管はJIS H 3300「銅および銅合金継目無管」の C1220Tタイプで、内部の付着油量40mg/10m以下、配管肉厚は0.8mmのものを使用してください。
●アルミ材や使用した冷媒配管は使用しないでください。
3. フレアナットおよびフレア加工
●フレアナットはエアコン本体付属のものに交換してください。

同梱付属部品

品番	付属部品	個数
①	据付板	1
②	据付板取付ねじ φ4×25L	6
③	ドレンニップル（※1）	1
④	リモコン ※リモコン形状は、シリーズで異なります。	1
⑤	電　池 単４	2
⑥	防水ゴムキャップ（※2）	2

付属品	個数
据付説明書	1
取扱説明書	1
アプリスタートガイド(※3)	1
保証書	1

※1. 室外ユニットに同梱しています。
※2. 221室外ユニットは使用しないため同梱しておりません。
※3. アプリスタートガイドは同梱していないシリーズがあります。

＊リモコンホルダー（別売）形名　リモコンホルダーは、シリーズで異なります。

シリーズ	リモコンホルダー形名	（参考）リモコン形状
X	RB-RH101	
M	RB-RH102	

据付部材

品番	部品名	個数	備考
㋑	フレア配管セット（接続配管 液側（外径）：6.35mm / ガス側（外径）：9.52mm）	各1	接続配線（3芯×1本）配管断熱材、バテ、テープ類が同梱
㋺	据付桟上	2	別売部品 形名 RB-I01K2（5セット梱包）形名 RB-I02K2（1セット梱包）
㋩	据付桟下	2	
㋥	アース棒	1	別売部品 形名 RB-Y12
㋭	シールドパイプ	1	

据付情報

■このエアコンは、冷媒 R32を使用しています。
据付は R32もしくはR410A対応の工具を使用してください。
■室内ユニット
●据付板を据え付けるときは、据付板と室内ユニットの位置関係を十分確認してください。
関連する寸法は「据付用型紙」に記載しています。
●ドレンホースを付け替えるときは、最初に本体と固定しているねじを使用してください。ドレンホースのはずしかたは「4. ドレンホースの接続と配管・ドレンホースの成形」をご覧ください。

据付場所の選定

室内ユニット

●据付板の周囲に右図 ⟺ 印の間隔を取れる場所。
●吸込口、吹出口の近くに障害物のない場所。
●重量に耐える場所。
●直射日光が当たらない場所。
●温風（冷風）が部屋全体に行きわたる場所。
●高周波機器、無線機器等の影響を受けない所。
●テレビやステレオなどの機器から1m 以上離してください。
（映像の乱れや雑音が入ることがあります。）
●カーテンボックス、カーテンレールから離してください。
●エアコン（吹出口）と火災警報器は、1.5m 以上離してください。
●ふろ場など、水がかかったり、湿気が多かったりする場所は避けてください。
●エアフィルターを下方へ引き出せる場所。
●室内ユニット下面から床まで1.8m以上離してください。

室外ユニット

●室外ユニットの周囲が解放された場所。
障害物がある場合は、室外ユニットの周囲2方向は開放し、障害物との距離は右図 ⟺ 印の間隔が取れる場所。
●強風の当たらない場所。（特にビルの屋上では、風が強く室外ファンが破損することがあります。）
●風と おしが良く吸込口、吹出口の近くに障害物のない場所。
●ユニットの重量に十分耐える場所で水平位置を保てる場所。
●運転音や振動が増大しない場所。
●室外ユニットや吹出口から風や運転音が隣家の迷惑にならない場所。
●可燃性ガスの漏れる恐れのない場所。
●排水されたドレン水が流れても問題ない場所。
●接続配管の長さ、室内外ユニットの許容落差は次の通りです。

機　種	接続配管長さ	落差
221	15m(但し10m以上は冷媒補充が必要)	10m
251, 281, 361, 401	20m(但し15m以上は冷媒補充が必要)	

※延長 1m 当たり 20g 補充してください。

●室外ユニット背面に手が触れやすい場所へ据え付ける場合は、「背面用金網（フィンガード）」（別売）をご利用ください。
●雨や直射日光が当たる場所の据え付けには、別売の「日除け屋根」も準備しています。

以下のような所は避けてください。
●塩害地・ビル上層部などの常時強風が当たる所。
●油・蒸気・油煙や腐食性ガスの発生する所。
●温泉地のように硫化ガスの発生する所。

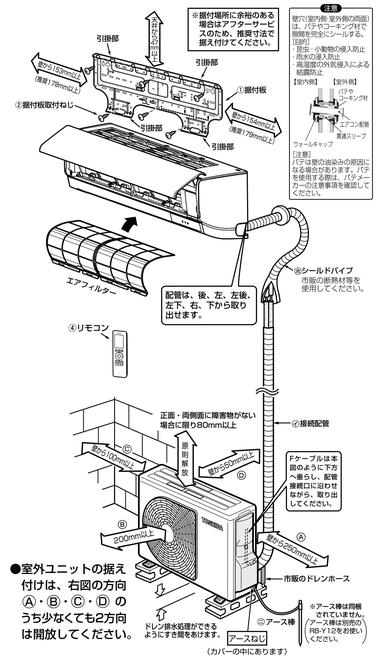
リモコン設置上のお願い

●リモコンホルダー、本体が確実に受信する位置であることを確認してから取り付けてください。
●直射日光の当たるところやストーブなどの近くに置かないでください。

お願い 室外ユニットを公団アパートなどの鉄筋アパートで、ベランダ、天井から別売の「団地据付具」で吊り下げて据え付けるときは、室外ユニットと天井のすき間を80mm以上あけてください。また、室外ユニットと据付具の間に防振ゴムを入れてください。

室内外ユニット据付図

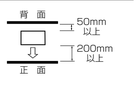
室内ユニットの据え付けには裏面の型紙をご利用ください。



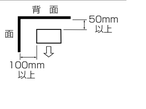
●室外ユニットの据え付けは、右図の方向Ⓐ・Ⓑ・Ⓒ・Ⓓのうち少なくても2方向は開放してください。

室内ユニット周囲が開放された据付場所が選べず、やむを得ず吸込口および吹出口に壁などの障害物がある場合は下記に従ってください。
ただし、冷暖房能力および入力は10%程度能力低下する場合があります。

●正面・背面に障害物がある場合



●背面・側面に障害物がある場合

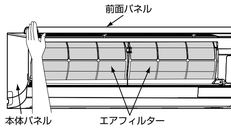


内壁の配管穴をパテ等でシールする場合、前面パネル・本体パネルを取りはずして作業してください。

本体パネルのはずしかた・取り付けかた

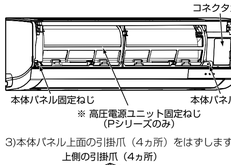
必ずコネクタカバー内の中継コネクタ(黒)をはずして、本体パネルを取りはずしてください。
※本体パネルをはずすときはエアコンの運転を停止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。

＜はずしかた＞
1)前面パネルをはずし、エアフィルター（2枚）をはずします。

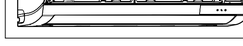


2)本体パネル固定ねじ（3本）とコネクタカバーをはずします。

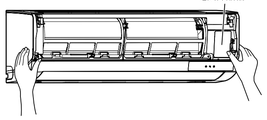
コネクタカバーをはずし、Fケーブルコネクタ右側に収納されている中継コネクタ（黒）をはずします。



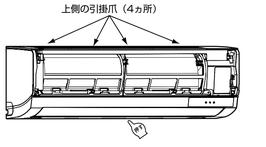
3)本体パネル上面の引掛爪（4ヵ所）をはずします。



4)本体パネルの両側面を手前に引きながら、右手の親指で電気部品箱を押してください。



＜取り付けかた＞
1)本体パネル上面の引掛爪（4ヵ所）を後板に引掛け、吹出口下部中央の1ヵ所を奥に向かって押します。



コネクタカバー内の中継コネクタ(黒)を接続します。

2)本体パネル固定ねじ（2本）を締め付けます。

3)前面パネル、エアフィルター（2枚）を取り付けます。

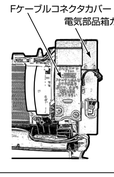
HA端子について

HA端子は、室内ユニットのメイン基板にあります。HA端子を使用する場合は、下記の作業順序で行ってください。

1)本体パネルをはずします。

2)Fケーブルコネクタカバーをはずします。

3)電気部品箱カバーをはずします。



4)メイン基板上のHA端子（CN91）にHAコネクタを接続します。

5)各部品を取り付けます。

据付工事手順

1.穴あけ・据付板固定

●裏面の型紙を利用して穴を開けます。
●据付板はねじ固定推奨位置など、4ヵ所以上ねじで固定してください。

2.電気工事

⚠警告
●**電源コードや接続配線を破損する場合、電源コードをはさんだりネジなどで傷つけない**
●**電源コードや接続配線は、極端に折り曲げたり、ビニールテープなどで巻いたりしない**
電源コードや接続配線が傷ついたり熱をもつと、感電・火災の原因になります。

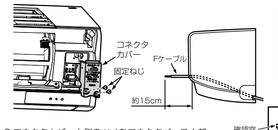
●電源はルームエアコン専用とし、エアコン専用コンセントを電源コードの届くところに設置してください。
●コンセントは新しいものを使用してください。
●電源コードを切断してプラグの交換、または延長するなどの改造や、延長コードで延長することは絶対にしないでください。
故障や火災などの原因になります。
●電源電圧をよく確認してください。誤印加すると室内ユニット表示部のランプが点滅してお知らせします。（50／60Hz）

機　種	電　源	コンセント定格・形状	最大電流	電源コード長さ
221, 251, 281, 361	単相100V	15A	Ⓘ 15A	1.3m
401	単相100V	20A	Ⓙ 20A	

●電源回路容量に十分余裕のあるように配線工事を行ってください。また、機種と据付場所によっては、感電防止のため漏電遮断器の取付が法規上必要な場合があります。
●大陽光発の自家発電の自立運転では動作しないことがあります。動作しない場合は、発電システムのメーカーへお問い合わせください。

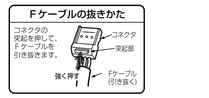
3.接続配線の接続

配線のしかた
1.前面パネルをあけ、コネクタカバーをはずします。
2.Fケーブルを前面より15cm出して、コネクタに挿入します。
※反心率時に芯線の被覆を傷つけないようにしてください。
※Fケーブルは平形ビニール外装ケーブル φ2.0(3芯)を使い、確認窓から芯線が見えるまで差し込んでください。
（確認窓が見えていたら、正面または斜め上からのぞき込むように確認してください。）

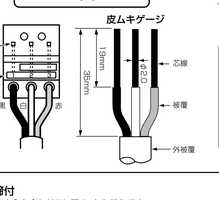


3.コネクタカバー上側のツメをコネクタベース上部のツメに引っ掛け、元のねじで固定し、前面パネルを閉じます。

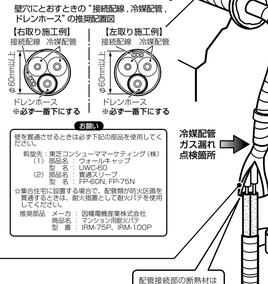
Fケーブルの抜きかた



皮ムキゲージ



壁穴におすすめの「接続配線，冷媒配管，ドレンホース」の推奨配置図



お願い
壁を貫通させるときは必ず下記の部品を使用してください。
有効先：東芝コンシューマーマケティング（株）
（1）部品名：ウォールキャップ　型　名：UWC-60
（2）部品名：貫通スリーブ　型　名：FP-60N, FP-75N
☆集合住宅に設置する場合で、配管部が外火災面を貫通するときは、耐火構造として都火庁や使用してください。
推奨部品　メーカ：因幡電機産業株式会社
商品名：マンション用面スリブ
型　番：IRM-75P, IRM-100P

配管接続部の断熱材は10mm程度ラップさせ、すき間が開かないようにテープでシールしてください。

9.冷媒配管の接続

接続配管

液側(外径)	ガス側(外径)
6.35mm	9.52mm

フレア加工

お使いのフレアツールにあった銅管出し代で加工してください。

①**パイプカッターで配管を切断します。**
バリは必ず取ってください。（ガス漏れの原因になります。）
②**フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。**

従来のツールを使用するときは下表の通り銅管の出し代を調整すれば使用できます。

●フレア加工時の銅管出し代：B（単位：mm）

	R32用または R410A用 フレアツール リジット(クラッチ式)	R22用 フレアツール リジット(クラッチ式)
B	0～0.5mm	1.0～1.5mm

●作業のポイント
フレア加工（R32用またはR410A ツール、リジット形）するときの銅管出し代Bを0.5mm出して加工すると、フレア加工寸法が大きくなり、トルクレンチでの絞め過ぎを防止できます。

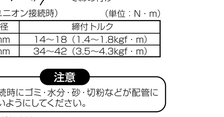
③フレア加工部に、傷・切粉付着・変形・段差・偏平がないことを確認します。

●フレア加工寸法
：A(単位：mm)

銅管外径	A +0 −0.4
6.35	9.1
9.52	13.2

接続部の締付
●接続配管の中心を合わせフレアナットを指先で十分締めた後、図のようにスパナで固定し、トルクレンチで締め付けます。

フレア面への冷凍機油の塗布は行わないでください。

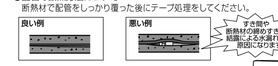


（ハーフユニオン接続時）　（単位：N・m）

銅管外径	締付トルク
6.35mm	14～18（1.4～1.8kgf・m）
9.52mm	34～42（3.5～4.3kgf・m）

注意
配管接続時にゴミ・水分・砂・切粉などが配管に入らないようにしてください。

●配管の断熱方法について
断熱材で配管をしっかり覆った後にテープ処理をしてください。

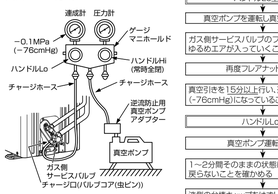


●フレア配管接続部の締付トルク
室内・室外の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締付トルクで確実に締付けてください。接続に不備があります とガスリークだけでなく、冷凍サイクル故障の原因にもなります。
トルクをかけ過ぎますと、据付条件によってはフレアナットが割れることがあります。

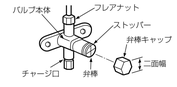
10.エアパージ

●気密試験を行う場合は、エアパージの前に実施してください。
気密試験方法は、裏面をご覧ください。

真空ポンプ方式



サービスバルブ



図の通りチャージホースを接続するマニホールドバルブは全閉
↓
バルブコア（虫ピン）押しの突起が出ている側の接続口をセットのチャージ口に取り付ける
↓
ハンドルLoを全開
↓
真空ポンプを運転し真空引きする(※1)
↓
ガス側サービスバルブのフレアナットを少しゆるめエアが入っていることを確認する。(※2)
↓
再度フレアナットを締める
↓
真空引きを15分以上行い、連成計が−0.1MPa（−76cmHg）になっていることを確認する(※1)
↓
ハンドルLoを全閉
↓
真空ポンプ運転を止める
↓
1～2分間そのまま状態にして連成計の針が戻らないことを確認する
↓
液側の弁棒キャップをはずします。液側の弁棒を反時計方向へ90°開き、5～10秒後閉じて配管接続部の冷媒漏れ検査を行います。
↓
サービスバルブの弁棒を全開にする（液側を全開、次にガス側を全開）
↓
チャージロよりチャージホースをはずす
↓
弁棒キャップとチャージ口のキャップを確実に締める

エアパージ（接続配管内の空気の排出）は、地球環境保護の観点から**「真空ポンプ方式」**でお願いします。
●地球環境保護のため、フロンガスを大気中に放出しないでください。
●真空ポンプ方式にてセット内の残留空気（窒素等）を除去してください。空気が残留すると能力低下などをまねくことがあります。

※1 真空ポンプは必ず逆流防止機構付きを使用してください。また、真空ポンプ真空ポンプアダプターおよびゲージマニホールドは、ご使用の前に各ツールに付属の説明書をお読みの上、正しくお使いください。真空ポンプは、油がオイルゲージの指定線まで入っていることを確認してください。
※2 エアが入っていないときは、チャージホースのバルブコア押しの突起が出ている側が、チャージ口にしっかり接続されているか再確認してください。

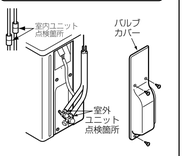
接続部から冷媒が漏れたとき
●フレアナットが規定トルクで締め付けられているか再確認してください。
●規定トルクで締め付けられていても冷媒が漏れるときは、フレア加工の不良合が考えられます。冷媒回収などによりエアコン内に冷媒が無い状態にした後、漏れ箇所を修理し、再接続を行った後、真空引きを行い、規定量の新規冷媒を追冷媒で再充填してください。そのとき、規定量以上の冷媒は絶対に入れないでください。

操作上の注意
トルクレンチで規定の締付けトルクで締め付けてください。

	面幅	締付トルク
弁棒キャップ	H17	
	H19	14～18N·m(1.4～1.8kgf·m)
	H21	
	H23	
	H25	34～42N·m(3.5～4.3kgf·m)
	H27	
チャージ口	H17	14～18N·m(1.4～1.8kgf·m)

11.ガス漏れ検査

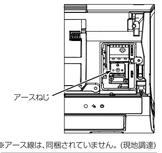
R32 には、HFC 冷媒（R32・R410A・R134a など）専用のリークディテクタを使用して、配管接続部のリークテストを確実に実施してください。



12.アース工事

●室内または室外ユニットのどちらか一方のアース端子より接地工事を行ってください。
（室外ユニットから接地工事を行うときは、裏面をご覧ください。）

室内ユニットからアースを行う場合



※アース線は、同梱されていません。(現地調達)
直径 1.6mm または断面積 2mm² 以上

お願い
●アース工事を行うときには、電源プラグを抜いた状態で実施してください。
●漏電ブレーカーが働く場合は衝撃波不動作形の漏電ブレーカに交換してください。
●漏電警報器が働く場合は漏電警報器の設定を変更してください。

●このエアコンは、「接地の基準」に従ってアース工事をしてください。

接地の基準
接地の基準はエアコンの電源電圧および接地場所により異なります。下表により接地工事を行ってください。

電源の条件	エアコンの種類	エアコン設置場所	水気のある場所に設置するとき	湿気のある場所に設置するとき	乾燥した場所に設置するとき
対地電圧が150V以下のとき	100Vの機種（含単相3線式200Vの機種）		D種接地工事が必要です。(注ⓑ)		D種接地工事は法的には除外されていますが安全のため接地工事をしてください。(注ⓑ)
対地電圧が150Vを超えるとき	3種200Vの機種（含単相3線式200Vの機種）		漏電遮断器を取り付けさらにD種接地工事が必要です。(注ⓐ)		

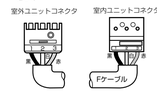
重要項目
次のようなものにアース線を接続すると危険ですので、絶対に行わないでください
水道管・ガス管・避雷針や電話のアース線

D種接地工事について（注ⓐ）
●接地工事は電気工事士の方が行ってください。
●接地抵抗は100Ω以下であることを確認してください。
ただし漏電遮断器を取り付けた場合は500Ω以下であることを確認してください。

乾燥した場所に設置するとき（注ⓑ）
●接地抵抗は100Ω以下になるようにしてください。
最悪でも250Ω以下であることを確認してください。

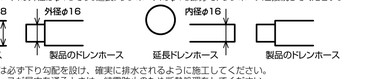
13.接続配線の接続

●室内ユニットの配線に合わせて配線します。
●サービスバルブカバーをサイドキャビネットにねじ3本でしっかり固定します。
※反ム中時に芯線の被覆を傷つけないようにください。



4.ドレンホースの接続と配管・ドレンホースの成形

ドレンホースの接続
●製品のドレンホースの外径は16です。延長ドレンホースの φ16部分でドレンホースと接続してください。



●ドレンホースは必ず下り勾配を設け、確実に排水されるように施工してください。
●延長ドレンホースが屋内を通るときは、結露防止のため断熱処理をしてください。
●ドレンホース接合部は、抜け防止と漏水防止のためのテープを巻いてください。
●施工後は、ドレンホース接合部からの漏水がなく、屋外に排水されることを確認してください。

左後取り・左取り・左下取りの場合
●ドレンホースとドレンキャップを付け替えます。
ドレンホースはねじで固定されています。
付け替え後もこのねじで固定してください。
ドレンキャップの差し込み寸法4mmの穴角レンチを使用してドレンキャップのツバが、ドレン口先端に当たるまで押し込みます。

お願い
●配管を曲げるときは、配管をつぶさないように注意してください。冷媒配管用座屈防止材を使用するときは、削り粉が入らないようなやフレア加工を行ったあとに挿入してください。
●配管・ドレンフレルドレンホースはみくらがのないように下側から化粧テープで巻いてください。
●配管接続部の場合11mm程度ラップさせ、隙間が開かないようにテープでシールしてください。
●補助配管のスリットは確実にシールしてください。
●補助配管の接続口に取り付けてあるナイロンキャップは再使用しないでください。

5.室内ユニットの取付

お願い 配管穴の隙間はパテなどでシールしてください。

1.配管を壁穴にとおし、据付板に室内ユニットを引っ掛けます。
2.室内ユニットを右に動かして、引っ掛かっていることを確かめ下部を壁側に押しつけます。
※電源コードを収納する場合は、据付板とツメにはさまないように配管収納部に収納してください。

左下・左・左後配管の据付について
●室内ユニットと壁の間に、ごぶした物を入れて室内ユニットを持ち上げると配管作業が楽にできます。

ドレン排水について
●ドレンホースは必ず下り勾配(1/25以上)をつけてください。
●次のような排水は行わないでください。

●気密性の高い部屋で換気扇を使用したときなどに、排水管からボコボコ音が発生する場合があります。対応部品（東芝コンシューマーマーケティング(株)有償品）として「ルームエアコン用逆止弁：DHB-1416」がありますので、必要に応じて取り付けてください。

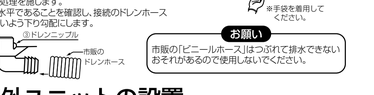
6.ドレン排水

●室外機底板には、暖房運転時の除霜水を効率よく排水させるために穴があいています。
ベランダ置きや暖房運転時などに多量の排水が必要なときは、下記手順に従って排水処理を行ってください。

1. 底板下面にある図の長穴に⑥防水ゴムキャップを取り付け、防水処理を行います。

「防水ゴムキャップの取付方法」
(1) ⑥防水ゴムキャップに4本の指を入れ、底板下側から排水穴に押し込んで挿入します。
(2) 外周部を押し、確実に挿入してください。(不完全挿入、外周部のめくれ、抜かるみは水漏れの原因になります)
※1)(2)の作業を行っても完全に防水できないときは、コーキング材・パテ材などのシール材を追加してください。
(221は防水ゴムキャップを使用しません。)

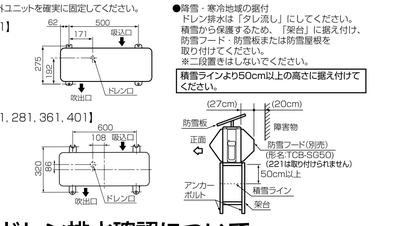
【全機種共通】
2. ③ドレンニップルと、市販の「トレンホース」(内径16mm)を取り付け、排水処理を施します。
●室外ユニットは水平であることを確認し、接続のドレンホースは"たるみ"がないよう下り勾配にします。



お願い
市販の「ビニールホース」はつぶれて排水できないおそれがあるので使用しないでください。

7.室外ユニットの設置

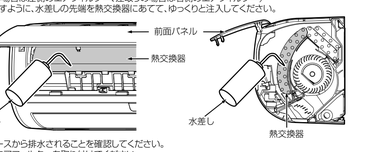
●室外ユニットを確実に固定してください。



●降雪・寒冷地域の据付
ドレン排水は「タレ流し」にしてください。
積雪から保護するため、「架台」に据え付け、防雪フード・防雪板または防雪屋根を取り付けてください。
※二段書きはしないでください。
積雪ラインより50cm以上の高さに据え付けてください。

8.ドレン排水確認について

●据付後のドレン排水性確認については、以下に記載する内容で行ってください。
1. 前面パネルを開けてください。
2. 片側のエアフィルターを取りはずしてください。
（右取りの場合は左側のエアフィルター、左取りの場合は右側のエアフィルター）
3. 下図に示すように、水差しの先端を熱交換器にあてて、ゆっくりと注入してください。



4. ドレンホースから排水されることを確認してください。
5. 確認後、エアフィルターを取り付けてください。
6. 前面パネルを閉じてください。

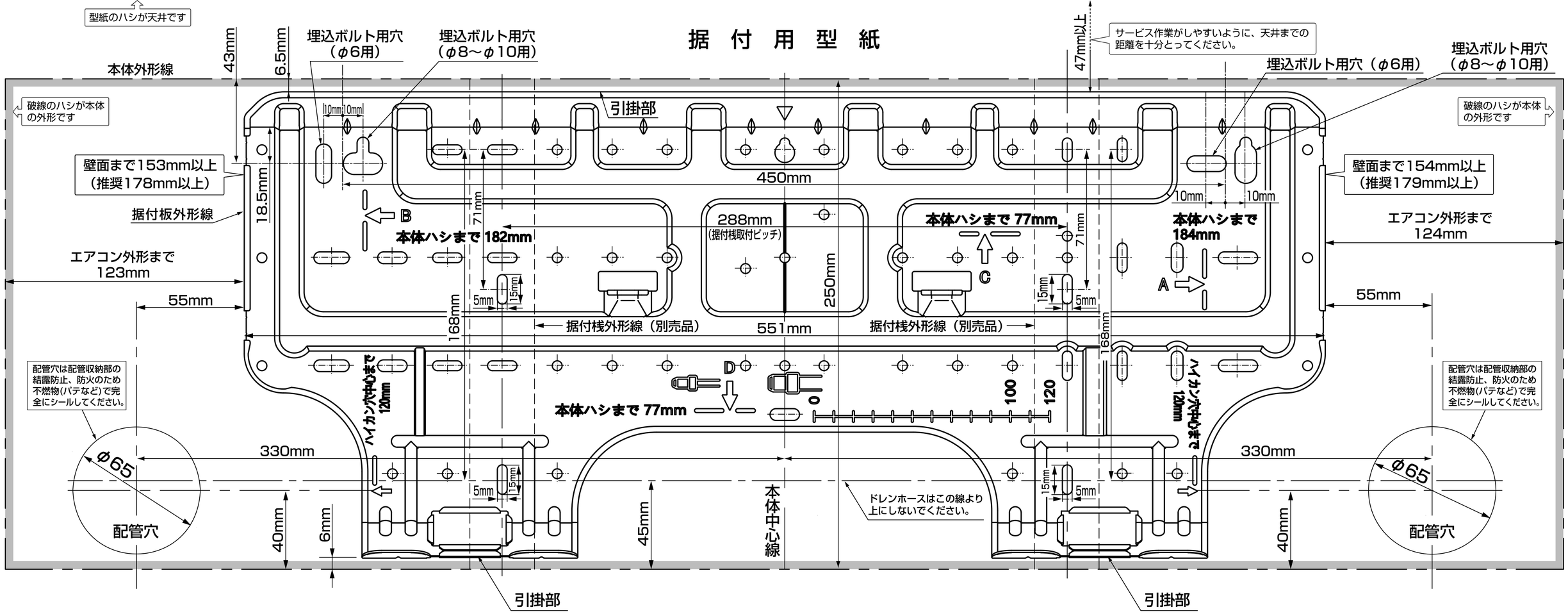
14.試運転と点検

据付工事完了後、□の中に✓印を入れて確認し、このチェックシートをお客様にお渡しください。

□ 据付場所は、エアコンの重量に十分に耐え、騒音や振動が増大しない場所です。
□ 電源は専用回路を使用し、電源電圧に問題のないことを確認しました。
□ 電源コードの中間接続や延長コードの使用、タコ足配線は行っていません。
□ コンセントと電源プラグにがたつきはありません。
□ 内外接続線の中間接続は行っていません。
□ アース線の接続は確実に行いました。
□ 配管接続部のリークテストを行い、冷媒が漏れていないことを確認しました。
□ 配管は断熱材でしっかり覆い、テープでシールしました。
□ 壁穴部のシールは確実に行いました。
□ サービスバルブの弁棒は全開にしました。
□ 室内ユニットに水を流して、確実に排水されることを確認しました。
□ 試運転を行い、冷房・暖房運転が正常であることを確認しました。
□ 取扱説明書をもとに、お客様に正しい取扱方法と運転方法を説明しました。

確認日：　　

据付用型紙



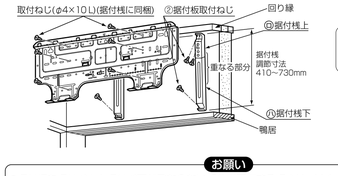
別売品や斡旋品を使用した据え付け方法

1. 据付桟（RB-I01K2またはRB-I02K2）

回り縁と鴨居を利用する場合

据付桟(別売品)をお使いください。

1. 据付桟上・下を回り縁下面から鴨居上面までの寸法に調整し、据付桟に同梱のねじ（φ4×10L）で据付板を仮止めします。
2. 仮組みした据付板と据付桟を②据付板取付ねじ（φ4×25L）で回り縁と鴨居へ固定します。
3. 据付板の水平を確認してから仮止めのねじをしっかり締め付けます。
4. 据付板の最上部と下部の引っ掛け部付近は必ずねじ止めしてください。



（据付桟(別売品)は、②据付板取付ねじ（φ4×25L)にて回り縁と鴨居に固定してください。）

お願い

- ●据付板を据付桟上と据付桟下が重ならない部分で固定する場合は、M4六角ナットで据付桟下の裏からとめてください。（六角ナットはRB-I01K2, RB-I02K2に同梱しています）
- ●据付桟は上と下を使用し、据付桟取付ピッチ（型紙に記載）で取り付けてください。このように取り付けない場合は、ビビリ音が発生することがあります。

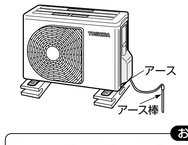
2. アース棒（RB-Y12）

接地工事のしかた

●室外または室内ユニットのどちらか一方のアース端子より接地工事を行ってください。

室外ユニットからアースを行う場合

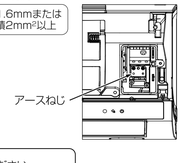
アース棒は同梱されていません。
（アース棒は別売のRB-Y12をお使いください。）



室内ユニットからアースを行う場合

アース線は、付属されていません。（現地調達）

直径1.6mmまたは断面積2mm²以上



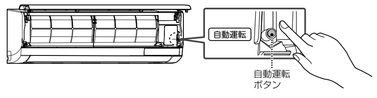
お願い

- ●アース工事を行う際には、電源プラグを抜いた状態で実施してください。
- ●漏電ブレーカが働く場合は衝撃波不動作形の漏電ブレーカに交換してください。
- ●漏電警報器が働く場合は漏電警報器の設定を変更してください。

据付工事完了後、必ず実施してください

試運転

1. 電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認します。
2. 停止中に「自動運転」ボタンを1回押すと受信音がピッと鳴り、自動運転になります。
   最長約3分後に運転を開始します。（ボタンを押すごとに受信音がピッと鳴り、運転が切り替わります。）
   運転を始めないときは、配線を再確認してください。



3. 試運転（自動運転）を停止するときは、「自動運転」ボタンを2回押してください。

→ 自動 → 強制冷房 → 停止 →

4. リモコンのボタンを押して、リモコンでも運転することを確認します。

3分間再起動防止タイマーについて

エアコンを起動するときや運転を切り換えたときは、約3分間運転を始めません。
これは本体保護のためで故障ではありません。

こんなとき

室外ユニットが運転せず、タイマーランプが点滅しながら、運転ランプが2回点滅を繰り返す

●電源電圧が200Vになっている可能性がありますので、電源電圧の確認をお願いします。

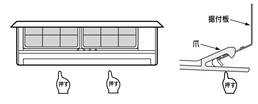
室外ユニットが運転せず、運転ランプのみ2回点滅を繰り返す

●Fケーブルの接続不良が考えられます。接続の再確認をお願いします。

据付後の取りはずしかた（移設時など）

■室内ユニット

室内ユニット下側の「PUSH」を上に押しながら手前に引きます。



■室外ユニット

地球環境保護の観点から、ポンプダウン（冷媒回収）をしてから取りはずします。

⚠警告

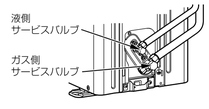
ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う

- **●冷凍サイクル内に空気を混入させない**
- **●サービスバルブを２つとも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管をはずす**

圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、けがなどの原因になります。

●ポンプダウンのしかた（移設時など）

① 室内ユニットの「自動運転」ボタンを押して強制冷房運転をします。
② 5分～10分後に液側サービスバルブの弁棒を閉めます。
③ さらに2分～3分冷房運転後ガス側サービスバルブの弁棒を閉め、運転を停止します。
④ 液側とガス側の接続配管を取りはずします。



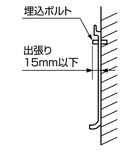
既設配管再利用時の注意事項

- ●一部の機種では、接続配管径の仕様が異なりますので、このときは買い換え後のエアコンに合った新しい配管を使用してください。
- ●古いエアコンを取りはずすときは必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷凍機油の回収を行ってください。
- ●ポンプダウンができないとき・配管内が極端に汚れているときは、洗浄するか新しい配管に交換してください。
- ●配管肉厚が0.8mmあること。（JIS規格の配管）また、電線が3芯φ2.0であること。
- ●配管に腐食・亀裂・傷・変形・劣化などが無いか点検してください。
- ●配管以外の部材（断熱材や配管支持部材など）も再使用可能か点検してください。
- ●再使用不可能のときは、補修または新しい配管に交換してください。
- ●施工には、R32もしくはR410A対応の工具を使用してください。
- ●フレアはR32対応に切り直し、φ12.7mmの既設配管のときはフレアナットの変更が必要です。

据付板の固定について

据付板を壁に直付けする場合

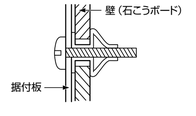
1. **据付板は最上部両端と下部の引っ掛け部付近を必ずねじ締めしてください。**
2. 表（おもて）面の据付図のように据付板の周りは間隔をあけ、壁内の構造材をさがして水平に取り付けます。(6ヵ所以上をねじで固定してください。)
3. **据付板の水準器置台に水準器をのせて水平を確認します。**
4. 埋込ボルトを利用するときは、右図のように埋込ボルト用穴を利用して固定します。
   （埋込ボルトの出張り寸法は 15mm 以下にしてください。）



石こうボードに据え付ける場合

石こうボードの厚みに合ったカサ式ボードアンカーを使用してください。

- ● 付属の据付板取付ねじは使用しないでください。
- ● ねじ込み式ボードアンカーは使用しないでください。



気密試験方法

気密試験を行う場合は、下記の手順で実施してください。

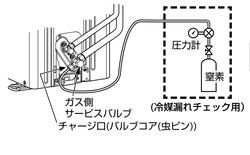
- ● 室外ユニットのサービスバルブの弁棒は、液側・ガス側共に全閉のままで試験します。

試験手順

① チャージ口と窒素ボンベをつなぎ、窒素ボンベのバルブを少しづつ開け、圧力計が4.17MPaになるまで配管内にゆっくり窒素ガスを封入する。

② 窒素ボンベのバルブを閉め、圧力計で圧力低下がないことを確認する。

③ 圧力低下がない場合、配管内の窒素を放出し10.エアパージ（表面）を行う。



⚠警告 **●酸素ボンベは使用しない**
発火・破裂の原因になります。